

## 教科等研究会（小学校外国語活動部会）

## 平成30年度 研究活動のまとめ

## 1 研究テーマ

英語に慣れ親しみ 楽しく積極的に  
コミュニケーションを図ろうとする児童の育成

## 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	指導法	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/24	32人	嘉島西小	8/6	嘉島西小	等研修	11/12	嘉島東小	竹原鮎香 教諭	1/24	広安西小	前田有希 教諭

## 3 研究の概要

## (1) 研究の内容

## ① 外国語活動の指導法等についての研究（期日：平成30年8月6日 場所：嘉島西小）

## ア 講話及び実践発表（講師 熊本市立飽田東小学校 前田 陽子 教諭）

熊本県の小学校外国語活動をリードしている前田先生に講話と実践発表をしていただいた。「言葉への渇き」の自覚化、付きたい力の具体化、英語の音声を聞くことの重視、子どもたちのつぶやきの取り入れ方、振り返りと評価等の様々な視点から、具体的実践を交えながら話していただいた。

## イ 新教材を使用した指導法について（講師 甲佐町立白旗小学校 原口 順子 教諭）

第5・6学年に配付された「We can!」を使用した指導について学ぶ機会を設定した。「We can!2」のUnit5「My summer vacation」における動詞の過去形の指導の進め方を原口先生に具体的に提示していただいた。

## ウ 外国語活動の模擬授業（講師 御船町立小坂小学校 北野 光湖 教諭）

第3学年「Let's try!1」のUnit5「What do you like?」の1時間を北野先生に模擬授業していただいた。会員は児童役として模擬授業に参加しながら、チャンツ、ゲーム、コミュニケーション活動を体験して学ぶことができた。

## エ 「Small Talk」の指導について（講師 嘉島町立嘉島西小学校 酒井 優子 教諭）

第5・6学年で行う「Small Talk」の目的及びその指導の進め方について、演習形式で学ぶことができた。

## オ 2学期に指導する単元の指導計画及び授業の展開案作成

会員を担当学年ごとにグループ分けし、2学期に指導する1つの単元の指導計画及び1単位時間の授業の展開案を協議して作成した。

## ② 第5・6学年の外国語活動の授業研究（期日：平成30年11月12日 場所：嘉島東小）

## ア 単元名 第5学年「She can run fast. He can jump high.」（We can! 1 Unit 5）

## イ 研究の視点

## ○ 視点1 「She/He を理解させるための指導方法の工夫」

第5学年で使用する新教材「We can!1」では、三人称の「She/He」を指導する。三人称の指導の導入として、嘉島東小の先生方ができること、できないことを「She」と「He」を使い分けながら教師が紹介した。「She」と「He」をグループ分けしながら、黒板にカードを貼ることを繰り返すことで、児童が「She」と「He」の意味や使い分け方について理解することができるようにした。



「She/He」の指導の様子

## ○ 視点2 「She/He の表現に慣れ親しませる方法の工夫」

「She」と「He」の表現を理解させた後、児童が「She」と「He」の表現を繰り返し聞いた話ししたりして慣れ親しむことができるように、次の学習活動を設定した。

① チャンツ ② ジェスチャーゲーム ③ コミュニケーションタイム（クイズ）

③ 第3・4学年の外国語活動の授業研究（期日：平成31年1月24日 場所：広安西小）

ア 単元名 第4学年「Do you have a pen?」（Let's Try! 2 Unit 5）

イ 研究の視点

○ 視点1「単元のゴール設定の工夫」

本単元では、「オリジナルの文房具のセットを作り、クイズ大会をしよう。」というゴールを設定した。このゴールの活動に向けて、次のように単元の指導計画を設定した。

- |     |   |
|-----|---|
| 第1時 | ゴールの設定 文房具の表現を知る。                                 |
| 第2時 | 文房具を持っているかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。                    |
| 第3時 | 自分の文房具セットに必要な物を学習した表現を使ってやり取りをして集める。              |
| 第4時 | クイズ大会をする。<br>※学習した表現を使ってやり取りし、誰が作った文房具セットなのかを当てる。 |



クイズ大会の様子

○ 視点2「単元で指導する表現に慣れ親しませる工夫」

本単元では、楽しく表現に慣れ親しませるための手段として、ジェスチャーを取り入れたチャンツやゲームを行った。これらの活動を行うことで、単元のゴールの活動でも児童がジェスチャーを使いながら楽しく会話ができるようにした。

(2) 成果と課題（成果○ ▲課題）

① 今年度の研修についての会員の感想から ※一部抜粋

- |   |
|---|
| <p>○ 新教材を実際に活用して、どのように授業をするかという研修では、授業をイメージして学ぶことができた。不安に感じているテーマについての演習があったため、授業で実際に行うことができた。（指導法等の研修について）</p> <p>○ 1日の研修で指導案を作ることができ、2学期の授業に活用できた。演習や模擬授業をしていただき参考になった。（指導法等の研修について）</p> <p>○ 今年度、中学年、高学年と授業を見させていただき、授業の組み立て方や指導法などを学ぶことができて大変勉強になった。今後に生かしたい内容がいろいろと見られた。（授業研究について）</p> <p>○ 授業をする際に、1人では同じ流し方になってしまっていて気付かないこともあるが、授業研を重ねることですぐにたくさんの学びがあった。（授業研究について）</p> <p>○ 中学年と高学年の授業をそれぞれ見たことで、学年間のつながりも理解できた。（授業研究について）</p> <p>▲ 先行実践についてもっと知りたい。※他の郡市の実践等</p> <p>▲ 高学年の評価について学ぶ機会をもちたい。</p> <p>▲ 中学校の先生方も研修に参加していただくことはできないか。※小・中連携</p> <p>▲ 上益城郡内で、教材や教具のデータ共有ができれば、先生方たくさんのアイディアを得たり、教材準備の負担を減らしたりできるのではないか。</p> |
|---|

② 研究内容について

- 指導法等の研究では、具体的な指導の進め方を講話、演習、模擬授業形式で行うことで、会員が指導法等について詳しく学ぶことができた。大変参考になったので、来年度の研修にも是非入れてほしいという要望が多くあった。
- 授業研究では、中学年からの外国語活動の導入と高学年での教科化を見据え、各学年1本ずつ研究授業を実施したことで、各学年段階の系統や指導のあり方について学ぶことができた。
- 授業研究では、各授業で視点にそった取組があり、討議の中で視点の取組についても意見を出し合うことで、会員が授業づくりについて深く考えることができた。
- ▲ 今年度は日程の都合上、中学校の外国語部会との合同研修が実施できなかった。小・中連携の視点からも是非来年度は合同研修を実施したい。
- ▲ 高学年の外国語の評価のあり方については、文科省からの方針が出されたら、研修する機会をもちたい。
- ▲ 教材、教具等を共有するシステムを考案する必要がある。

#### 4 実践事例

(1) 授業の概要 (授業者 広安西小学校 前田 有希 教諭 ALT Keilyn Kuramistu)

① 単元名 第4学年「Do you have a pen?」 (Let's Try! 2 Unit 5)

② 本時の目標

何を持っているかやいくつ持っているかを尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

③ 本時の概要

本時は、指導計画4時間扱いの中の4時間目の授業を実施した。T1が担任、ALTがT2のTTの指導体制で授業を実施した。前時までに慣れ親しんできた表現を使って、単元のゴールとなるクイズ大会を小グループに分かれて実施した。



クイズのデモンストレーションの様子



グループごとのクイズ大会の様子

④ 授業研究会 (よかった点○ 改善点▲)

ア 研究の視点についての意見

視点1「単元のゴール設定の工夫」について

- クイズ大会は児童のコミュニケーションへの意欲をかき立てていた。
- クイズは、友達のやり取りを聞かないとクイズの答えが分からないという設定になっており、自分が話すことだけでなく、やり取りを聞くことへの必然性を高めていた。
- クイズの答えの情報を得るために、既習の表現を組み合わせるなど、児童が思考・判断する姿が見られた。
- ▲ クイズのルールをもっと細かく決める必要があった。(答える回数など)
- ▲ 今回のクイズは、グループ同士で出し合ったが、児童の発話量を増やすために1対1のやり取りやペア同士のやり取りでもよかった。
- ▲ クイズだけに終わるのではなく、自分が作った文房具セットについて思いを伝え合う場面があってもよかった。

視点2「単元で指導する表現に慣れ親しませる工夫」について

- 本時で使用する表現がチャンツに盛り込まれていることが効果的だった。
- ▲ チャンツのスピードが速かった。(デジタル教材) ALTがいたので、ALTにゆっくりのスピードでもらってもよかった。
- ▲ ジェスチャーをつけながらのチャンツは難しかった。発音だけ徹底してもよかった。

イ その他の授業についての意見

- デモンストレーションで児童をモデルとして出したことがよかった。その児童の自信につながった。
- 児童が「Do you have～?」「How many～?」等の表現を使いこなして会話していた。
- 複数形の「s」を意識して使っている児童がいた。
- 図工室を使って、グループ同士のクイズ大会がしやすい場づくりができていた。
- クイズ大会で表現が言えない際に、友達同士で教え合う場面が見られた。
- 振り返りの感想発表では、本時の目標に沿った感想を発表させるなど、教師の意図的指名がよかった。
- ▲ 表現に慣れ親しませる活動を授業の前半でもっと多く設定してもよかった。
- ▲ 中間評価で、児童のよかった点を明確にし、全体に広げる工夫が必要だった。

## (2) 学習指導案

過程	学 習 活 動	形態	○教師●ALTの支援 評価	備考
見 通 す  5 分	1 Greeting あいさつをする。 2 Sing a song 3 Today's goal	全	○今日の「天気」「日にち」「曜日」のやり取りを行う。 ○楽しく歌いながら、本時の表現に慣れ親しませる。	電子黒板
	「何を持っているか」や「いくつ持っているか」を尋ねたり答えたりしてクイズ大会をしよう。			
考 え る  15 分	4 Activity 1 (1) クイズ大会のデモンストレーションを体験する。  A:クイズを出す人 B:質問をする人 A: Quiz time! B: Do you have a pen? A Yes, I do. B: How many pencils? A: I have two pencils. B: What color do you like? A: I like blue.  (2) 表現の練習をする。	全         全	○●クイズのデモンストレーションを行いやりとりやルールを全体で確認する。 ○文房具の言い方を忘れてしまった場合でもジェスチャーを使うと相手に伝わることに気付かせる。  ○●単語やリズムを変えながら、クイズで用いている表現の練習を行い、コミュニケーションポイントを意識している児童を積極的に褒めるようにする。	文房具の絵カード  文房具セットのカード   絵カード
伝 え あ い ・ 学 び あ う  20 分	5 Activity 2 グループに分かれて、クイズ大会をする。	班	○全体を4つのグループに分けることで、全員の児童が質問したり答えたりできるようにする。 ○チームでクイズを行うことで、友だちと相談したり教え合ったりしながら自信を持って尋ねたり答えたりできるようにする。 ○困ったときには、HRTやALTを「help」と呼ぶように伝える。 ●グッドコミュニケーションの児童を褒めたり困っている児童にアドバイスをしたりする。 ○中間評価を行い、良いところ褒め、気を付けてほしい点に気づかせ、後半の活動に生かす。  【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 進んで文房具などの持ち物を尋ねたり答えたりしてクイズを楽しんでいる。	文房具セットのカード
確 か め る  5 分	6 Review ふり返しシートに記入し、発表する。 7 Ending あいさつをする。	全	○本時の学習を振り返り、感想を発表させる。 ○コミュニケーションポイントの観点から、誰のどんなところがよかったのかを書かせるように促す。	振り返りシート